

MeBio 数学テキスト

昭和大学 2017 年 2 番
確率の問題

— 深読み —

第 1 章

問題と解答

問題 1-1 次の問いに答えよ。ただし、(1), (2) は答のみを解答欄に記入せよ。

公平なサイコロを 1 回振るごとに、偶数の目が出たら 1(万円) を獲得し、奇数の目が出たら 1(万円) を損失するという賭けを行う。所持金 0 でこの賭けを n 回繰り返した際の損益額の合計を Z_n (万円) とする。ただし、 $Z_0 = 0$ とする。

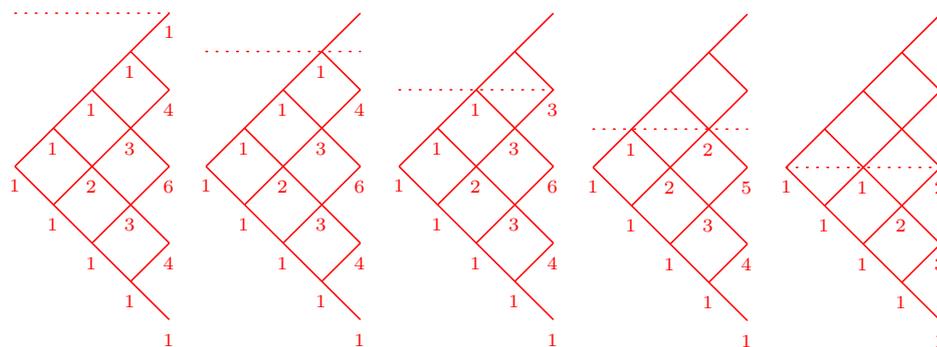
- (1) $M_n = \max_{0 \leq i \leq n} Z_i$ とするとき、確率 $P(M_4 = k)$, $k = 0, 1, 2, 3, 4$ の値をそれぞれ求めよ。ただし、 $\max_{0 \leq i \leq n} Z_i$ は $0 \leq i \leq n$ における Z_i の最大値を表す。
- (2) $T_n = \#\{i \mid i = 0, 1, 2, \dots, n-1, (Z_i = 0 \cap Z_{i+1} = 1) \cup (Z_i = 1 \cap Z_{i+1} = 0)\}$ とするとき、確率 $P(T_4 = k)$, $k = 0, 1, 2, 3, 4$ の値をそれぞれ求めよ。ただし、 $\#A$ は集合 A の要素の個数を表す。
- (3) 任意の k に対して $P(M_5 = k)$ と $P(T_5 = k)$ の間に成り立つ関係を求めよ。

略解

- (1) $P(M_4 = 0) = \frac{3}{8}, P(M_4 = 1) = \frac{1}{4}, P(M_4 = 2) = \frac{1}{4}, P(M_4 = 3) = \frac{1}{16}, P(M_4 = 4) = \frac{1}{16}$
- (2) $P(T_4 = 0) = \frac{3}{8}, P(T_4 = 1) = \frac{1}{4}, P(T_4 = 2) = \frac{1}{4}, P(T_4 = 3) = \frac{1}{16}, P(T_4 = 4) = \frac{1}{16}$
- (3) $P(M_5 = k) = P(T_5 = k)$

解答

(1) 偶数の目が出れば右上、奇数の目が出れば右下に進むことにする。下の表より次の確率がわかる。

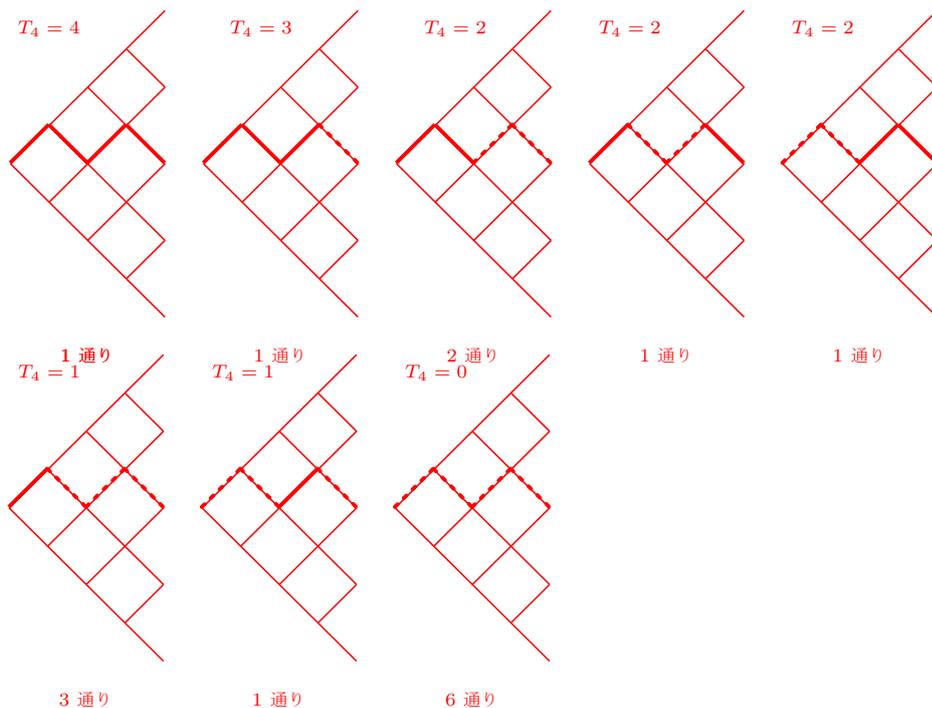


$$P(M_4 \leq 4) = \frac{16}{16}, P(M_4 \leq 3) = \frac{15}{16}, P(M_4 \leq 2) = \frac{14}{16}, P(M_4 \leq 1) = \frac{10}{16}, P(M_4 \leq 0) = \frac{6}{16}.$$

これより次を得る。

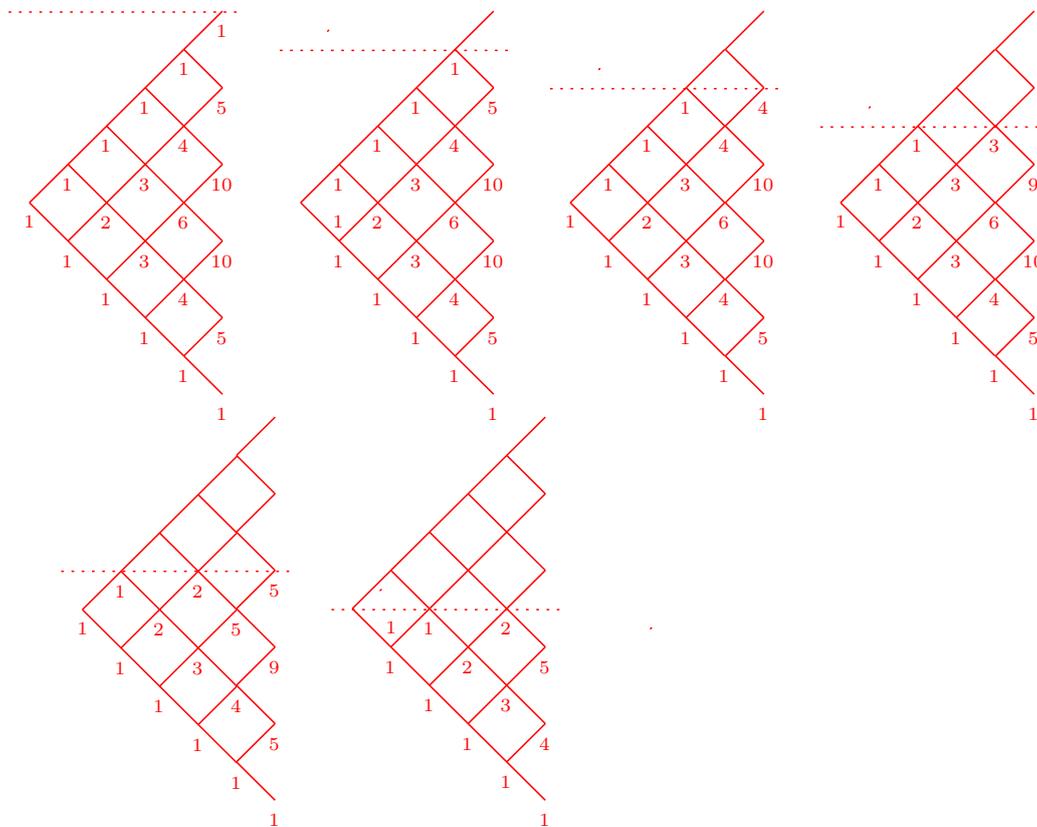
$$P(M_4 = 4) = \frac{1}{16}, P(M_4 = 3) = \frac{1}{16}, P(M_4 = 2) = \frac{4}{16}, P(M_4 = 1) = \frac{4}{16}, P(M_4 = 0) = \frac{6}{16}.$$

(2) 太線部を通り、点線部を通らない経路の数を数えればよい。



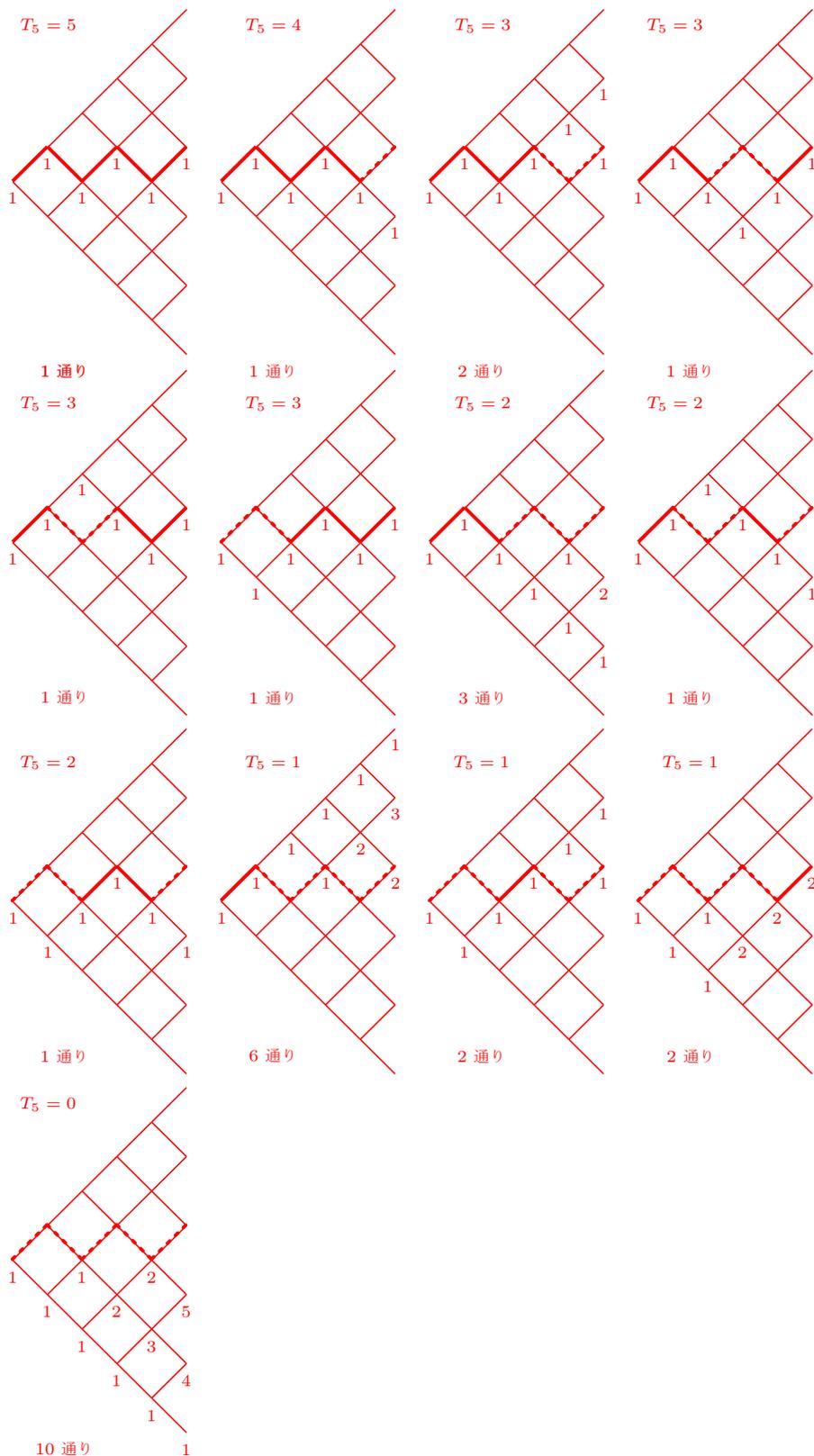
これより $P(T_4 = 4) = \frac{1}{16}$, $P(T_4 = 3) = \frac{1}{16}$, $P(T_4 = 2) = \frac{4}{16}$, $P(T_4 = 1) = \frac{4}{16}$, $P(T_4 = 0) = \frac{6}{16}$ がわかった.

(3) (1), (2) と同じことを $n = 5$ でやってみればよい。(もっと本質的に、任意の n, k に対して $P(M_n = k) = P(T_n = k)$ が成り立つことが証明できる。ただしおそらく容易ではない。証明は亀井 HP.)



これより次を得る.

$$P(M_5 = 5) = \frac{1}{32}, P(M_5 = 4) = \frac{1}{32}, P(M_5 = 3) = \frac{5}{32}, P(M_5 = 2) = \frac{5}{32}, P(M_5 = 1) = \frac{10}{32}, P(M_5 = 0) = \frac{10}{32}.$$



これより次を得る.

$$P(T_5 = 5) = \frac{1}{32}, P(T_5 = 4) = \frac{1}{32}, P(T_5 = 3) = \frac{5}{32}, P(T_5 = 2) = \frac{5}{32}, P(T_5 = 1) = \frac{10}{32}, P(T_5 = 0) = \frac{10}{32}.$$

従って $P(M_5 = k) = P(T_5 = k)$ ($0 \leq k \leq 5$) がわかった.

第 2 章

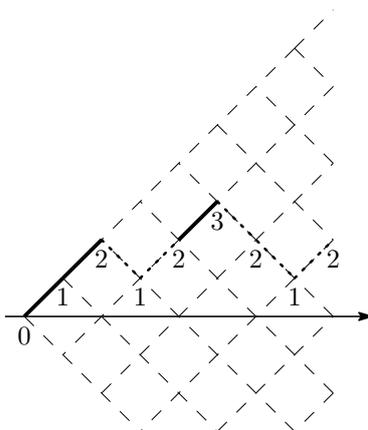
気になった部分

もちろん, すべての n, k に対して $P(M_n = k) = P(T_n = k)$ が成り立つかどうかである. 実際成り立つことが 2 通りで証明できた. もっと簡単な証明もありそうだ.

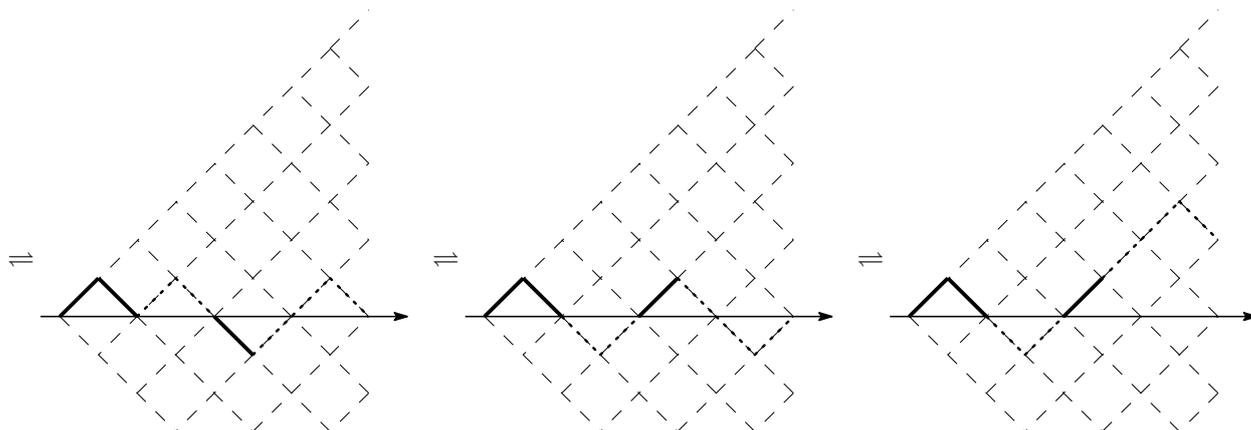
確率で考えるメリットは何もないから, $M_n = k$ を実現する経路の数を $N(n, k)$, $T_n = k$ を実現する経路の数を $S(n, k)$ とし, $N(n, k) = S(n, k)$ を示そう.

§ 1 1対1対応

最初に思いついた証明は $M_n = k$ を実現する経路と $T_n = k$ を実現する経路の間に 1:1 対応を付ける証明である. 対応は次の通り.



図のように, 過去最大損益 Z_i を更新している線分を太くする. 図では太線が 3 つある. 1 本目の太線から順に, その太線の右端点以降の経路を上下反転させることを繰り返す.



これは逆操作も可能である。これにより $M_n = k$ を実現する経路と $T_n = k$ を実現する経路が 1:1 に対応することは容易にわかる。

§2 $N(n, k)$ の具体的な値

次に考えたのは (鷹合さんからも指摘されたが), $N(n, k)$ と $S(n, k)$ が同じ漸化式を満たせば証明できるというものだった。しかし $N(n, k)$ に関する漸化式は簡単にわかるが, $S(n, k)$ に関する漸化式は簡単には求められそうになかった。

代わりにという訳でもないが, $N(n, k)$ に関する漸化式から $N(n, k)$ の具体的な値が導けることに気がついた。 n を 0 以上の整数とする。 $k < 0$ および $k > n$ の場合 $N(n, k) = 0$ と定義しておく。

命題 2.1 $N(0, 0) = 1, N(1, 1) = 1, N(1, 0) = 1$ である。 $n > 1$ に関する $N(n, k)$ の値は次の漸化式で決定できる。

$$(1) \quad n \geq 1, k \geq 1 \text{ のとき } N(n, k) = N(n-1, k-1) + N(n-1, k+1)$$

$$(2) \quad n \geq 1, k = 0 \text{ のとき } N(n, 0) = N(n-1, 0) + N(n-1, 1)$$

証明 $k \geq 1$ とする, 一回目が偶数である場合, $M_n = k$ となるためには, 残り $n-1$ 回の最大損益が $k-1$ であることが必要十分である。また一回目が奇数である場合, $M_n = k$ となるためには, 残り $n-1$ 回の最大損益が $k+1$ であることが必要十分である。

$k = 0$ とする, 一回目が偶数である場合, $M_n = 0$ となることはない。また一回目が奇数である場合, $M_n = k$ となるためには, 残り $n-1$ 回の最大損益が 0 または 1 であることが必要十分である。 \square

この漸化式を適用すると, $N(n, k)$ の値が次のように求められる。

$$N(0, 0) = 1,$$

$$N(1, 0) = 1, N(1, 1) = 1,$$

$$N(2, 0) = 2, N(2, 1) = 1, N(2, 2) = 1,$$

$$N(3, 0) = 3, N(3, 1) = 3, N(3, 2) = 1, N(3, 3) = 1,$$

$$N(4, 0) = 6, N(4, 1) = 4, N(4, 2) = 4, N(4, 3) = 1, N(4, 4) = 1,$$

$$N(5, 0) = 10, N(5, 1) = 10, N(5, 2) = 5, N(5, 3) = 5, N(5, 4) = 1, N(5, 5) = 1,$$

これを見ると次の予想が立つ。

命題 2.2 $N(n, k) = {}_n C_{\lfloor \frac{n+k+1}{2} \rfloor}$

証明 帰納法で証明する。 $n = 0, 1$ のときは正しい。 $n = m-1$ のときの成立を仮定する。 $k \geq 1$ の場合

$$\begin{aligned} N(m, k) &= N(m-1, k-1) + N(m-1, k+1) \\ &= {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m+k-1}{2} \rfloor} + {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m+k+1}{2} \rfloor} \\ &= {}_m C_{\lfloor \frac{m+k+1}{2} \rfloor} \end{aligned}$$

また $k = 0$ の場合 (この場合 ${}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m}{2} \rfloor} = {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m-1}{2} \rfloor}$ が容易にわかる。)

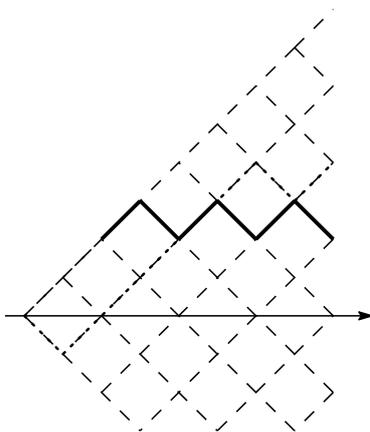
$$\begin{aligned} N(m, 0) &= N(m-1, 0) + N(m-1, 1) \\ &= {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m}{2} \rfloor} + {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m+1}{2} \rfloor} \\ &= {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m-1}{2} \rfloor} + {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m+1}{2} \rfloor} \\ &= {}_m C_{\lfloor \frac{m+1}{2} \rfloor} \end{aligned}$$

以上により証明された。 \square

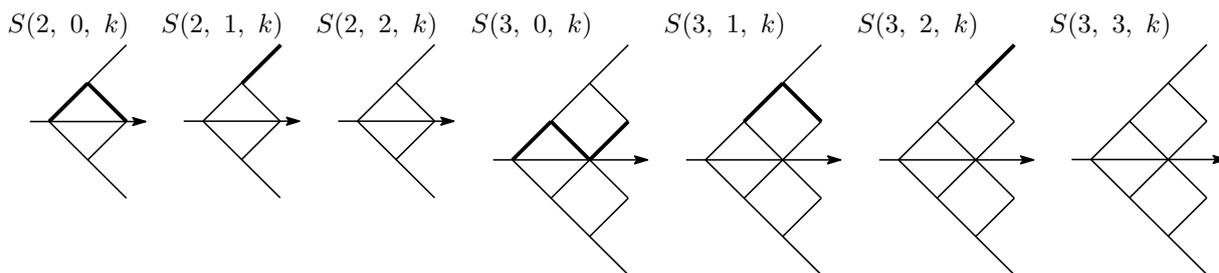
§3 $S(n, k)$ の具体的な値

$S(n, k)$ に関しては $N(n, k)$ と同様の漸化式は成り立ちそうにない. そこでもう少し精密化して考えてみた.

道の数 n の経路を一つ考える. $0 \leq n, 0 \leq l \leq n-1$ に対し $T_{n,l} = \#\{i \mid i = 0, 1, 2, \dots, n-1, (Z_i = l \cap Z_{i+1} = l+1) \cup (Z_i = l+1 \cap Z_{i+1} = l)\}$ とする. $T_{n,l} = k$ を実現する経路の数を $S(n, l, k)$ と置く. 先程定義した $S(n, k)$ とは $S(n, k) = S(n, 0, k)$ の関係がある.

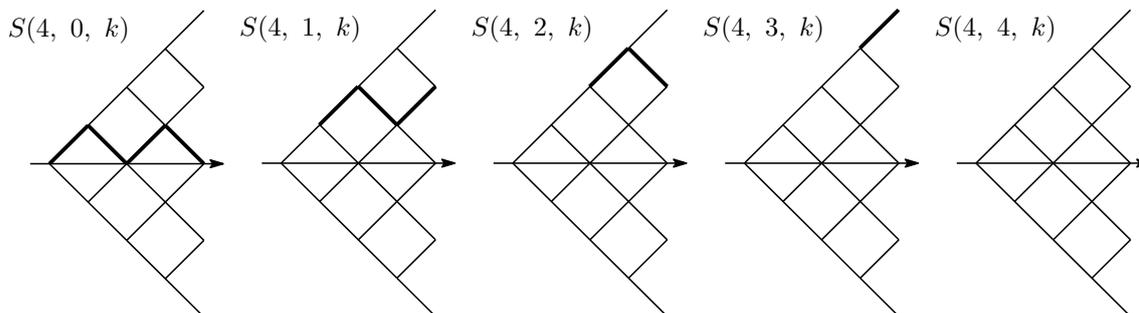


上の図の点線は $T_{8,2} = 1$ となる経路の例である. 小さい数に対する $S(n, l, k)$ の値を挙げてみよう.



$$\left\{ \begin{array}{l} S(2, 0, 2) = 1 \\ S(2, 0, 1) = 1 \\ S(2, 0, 0) = 2 \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{l} S(2, 1, 1) = 1 \\ S(2, 1, 0) = 3 \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{l} S(2, 2, 0) = 4 \end{array} \right.$$

$$\left\{ \begin{array}{l} S(3, 0, 3) = 1 \\ S(3, 0, 2) = 1 \\ S(3, 0, 1) = 3 \\ S(3, 0, 0) = 3 \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{l} S(3, 1, 2) = 1 \\ S(3, 1, 1) = 1 \\ S(3, 1, 0) = 6 \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{l} S(3, 2, 1) = 1 \\ S(3, 2, 0) = 7 \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{l} S(3, 3, 0) = 8 \end{array} \right.$$



$$\left\{ \begin{array}{l} S(4, 0, 4) = 1 \\ S(4, 0, 3) = 1 \\ S(4, 0, 2) = 4 \\ S(4, 0, 1) = 4 \\ S(4, 0, 0) = 6 \end{array} \right. \left\{ \begin{array}{l} S(4, 1, 3) = 1 \\ S(4, 1, 2) = 1 \\ S(4, 1, 1) = 4 \\ S(4, 1, 0) = 10 \end{array} \right. \left\{ \begin{array}{l} S(4, 2, 2) = 1 \\ S(4, 2, 1) = 1 \\ S(4, 2, 0) = 14 \end{array} \right. \left\{ \begin{array}{l} S(4, 3, 1) = 1 \\ S(4, 3, 0) = 15 \end{array} \right. \left\{ \begin{array}{l} S(4, 4, 0) = 16 \end{array} \right.$$

この表を見ると $k \geq 1$ に対し $S(n, l, k) = {}_n C_{\lfloor \frac{n+l+k+1}{2} \rfloor}$ という予想がつく. $k = 0$ の場合は $S(n, l, 0) =$

$2^n - \sum_{k=1}^n S(n, l, k)$ で出せばよいだけなので, 直接考える必要はない.

今までと同様 ${}_4 C_6$ や ${}_4 C_{-1}$ など定義されない二項係数の値は 0 ということにする.

命題 2.3 $n \geq 1$ とする. 次の漸化式が成り立つ.

- (1) $l \geq 1$ のとき $S(n, l, k) = S(n-1, l-1, k) + S(n-1, l+1, k)$
- (2) $l = 0, k \geq 1$ のとき $S(n, 0, k) = S(n-1, 0, k-1) + S(n-1, 1, k)$
- (3) $l = 0, k = 0$ のとき $S(n, 0, 0) = S(n-1, 1, 0) + S(n-1, 1, 1)$

証明 それぞれ一回目が偶数か奇数かに分けて考えればよい. $S(n, 0, k)$ で一回目が偶数の場合は, (1, 1) 以降の進路を上下反転して考えることにより $S(n-1, 0, k-1)$ であるとわかる. □

この漸化式を適用すると, 先程の予想が証明できる.

命題 2.4 $n \geq 0, 0 \leq l \leq n-1$ とする.

- (1) $k \geq 1$ のとき $S(n, l, k) = {}_n C_{\lfloor \frac{n+l+k+1}{2} \rfloor}$ が成り立つ.
- (2) $l = 0, k = 0$ のとき $S(n, 0, 0) = {}_n C_{\lfloor \frac{n+1}{2} \rfloor}$ が成り立つ.

証明 n に関する帰納法で証明する. $n = 0, 1$ のときは正しい. $n = m-1$ のときの成立を仮定する.

- (1) $l \geq 1, k \geq 1$ の場合

$$\begin{aligned} S(m, l, k) &= S(m-1, l-1, k) + S(m-1, l+1, k) \\ &= {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m+l+k-1}{2} \rfloor} + {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m+l+k+1}{2} \rfloor} \\ &= {}_m C_{\lfloor \frac{m+l+k+1}{2} \rfloor} \end{aligned}$$

$l = 0, k \geq 1$ の場合

$$\begin{aligned} S(m, 0, k) &= S(m-1, 0, k-1) + S(m-1, 1, k) \\ &= {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m+k-1}{2} \rfloor} + {}_{m-1} C_{\lfloor \frac{m+k+1}{2} \rfloor} \\ &= {}_m C_{\lfloor \frac{m+k+1}{2} \rfloor} \end{aligned}$$

- (2) $S(m, 0, 0) = 2^m - \sum_{k=1}^m S(m, 0, k)$ より成り立つ.

以上により証明された. □

結論 $S(n, k) = S(n, 0, k) = {}_n C_{\lfloor \frac{n+k+1}{2} \rfloor} = N(n, k)$ が証明できた.